

第3学年国語科「本を読みたくなるポップを作ろう ～『ワニのおじいさんのたから物』～」

学習指導者 岡根 平

前単元『図書館へ行こう』の学習の中で、図書室の利用者が選書で悩んでいるということを司書教諭から聞いた子供たちは、自分が選んだ本を読みたくなるようなポップを作ろうという単元の目標を設定しました。そして、ポップ作りに必要なことを話し合い、『ワニのおじいさんのたから物』で学習したことを基に、自分たちが選んだ本でポップを作っていくという学習の計画を立てました。

自分が選んだ物語でポップに入れる内容を決めよう

【見通し】

まずは前回の学習を振り返り、本時することを決めたり、単元の目標を確認したりすることで、課題解決への意欲を高めていきました。その際、前時に共通教材で学んだ、「変化前」と「変化のきっかけ」、「性格」「気持ち」をポップに入れるとよかったことを確認し、それを見付けるためには、学級で共有している課題解決の方法（「読む」の技）の中で、どの技が使えるか考え、本時の課題解決の見通しを立てていました。



【行動】

本時までには作成した、自分が選んだ物語で起こる出来事を短くまとめた短冊を使って、ポップに入れる内容を決めたり、そこから想像できる人物の気持ちや性格を想像したりしていました。その際は、同じシリーズ本を選んだ友達で班に、その中の同じ話を選んだ友達とは隣になるように机を配置したことで、必要に応じて隣の友達と相談しながら物語の初めと終わりを比べ、「変化前」や「変化のきっかけ」を探したり、班の友達と、物語を越えて人物の性格を相談し合ったりしながらポップに入れる内容を吟味していました。



【振り返り】

本時の課題解決ができたかどうかを振り返った後、教師の「次の学習に生かすためには何を振り返ればよかったかな」という問いかけによって、学び方について振り返ることの意義を想起していました。その後、読みの技やグループでの取り組み方などについてを項目にした「秘伝の書」を基に、自分やグループの取り組み方を振り返りました。その際、具体的にどんな場面でできたと感じたかを想起することで、協働のよさや他者への貢献を感じていました。



成果と課題

○同じシリーズやその中の同じ物語を選んだ友達とペアやグループになって活動することで、必要に応じて友達と関わりながら、自分のポップに入れる内容を相談し合いながら課題解決したり、自分の取り組み方を振り返ったりできた。
▲教師が個別に問い返していた言葉等を共有したり、悩んでいるグループの課題を全体で取り上げ、どのように解決すればよいか共有する時間を設けたりするなど、子供たち同士でより学びを深めていくことができる手立てが必要であった。